

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

当事者A	年齢[30]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[10]年、階級[消防士]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者	現場到着、空気呼吸器を着装しホース延長開始	
経過2	当事者	3階のベルトコンベア付近に到着、筒先員として消火活動開始	
経過3	応援隊	応援隊現場到着、ホース延長開始	
経過4	応援隊	3階ベルトコンベア付近に到着、放水開始	
経過5	当事者	応援隊の放水した水が熱くなった鉄板により熱湯となり、当事者に降りかかる	
経過6	当事者	ヘルメットと面体の隙間に熱湯がかかり、熱さを感じるものの3階部分狭隘のため移動せずに放水続行	
経過7	当事者	鎮火後負傷部位を確認するも、発赤のみ	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思いませんか？

ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思いませんか？

危険情報を把握、予見できなかった。避難・退避がうまくいかなかった。資機材の不機能が適切だった。周囲の視界が確保できなかった。指揮者が適切に指示しなかった。後方からの監視の目が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

その他

l . その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



注意力欠如、焦り等の対策について

装備・資機材の対策について

個人装備は完全着装し、肌が露出することがないように徹底した。(署所)

活動環境の対策について

暗闇で周囲の状況が確認できない場合は、投光器や強力ライトを活用し、早期に電源照明車を要請するよう徹底した。また、大規模対象物については、現地検討会等を実施し、建物構造の把握に努めた。(署所)

指揮・情報伝達の対策について

指揮者は活動開始前に活動内容や、活動に伴う危険性について徹底する、また無線等を活用し応援隊との連携を図ることを再確認した。前線の隊員同士については、声を掛け合い安全を確認しあうよう徹底した。(署所)

○事故事例：ごみ処理施設での消火活動中に熱傷受傷した事例
 (同様の体験は、初めて体験した。)

(07J0028)

・発生日時：平成19年1月30日 午前9時頃

経過	現場の状況	隊員A	応援隊	備考
		隊員／消防士 ・年齢 30 歳 ・勤続 10 年 ・現場 10 年 ・同様の活動：頻繁		
	鉄板で囲まれたベルトコンベア内でゴミが燃焼中であり、周囲の鉄板が熱されていた。 周囲は暗闇の状態だった。	現場到着、空気呼吸器を装着しホース延長開始 3階のベルトコンベア付近に到着、筒先員として消火活動開始	応援隊現場到着、ホース延長開始 3階ベルトコンベア付近に到着、放水開始	暗闇のため周囲の状況が確認できず、他隊との連携ができていなかった。 危険情報の把握、予見ができていなかった。
		暗闇のため周囲の状況が確認できなかった。		
		応援隊の放水した水が熱くなった鉄板により熱湯となり、当事者に降りかかる ヘルメットと面体の隙間に熱湯がかかり、熱さを感じるものの3階部分狭隘のため移動せずに放水続行 鎮火後負傷部位を確認するも、発赤のみ		

◎事故が起きたのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因：情報入力に問題があった。状況判断に問題があった。
- ・危険情報を把握、予見できなかった。
- ・避難・退避がうまくいかなかった。
- ・資機材の不機能が適切だった。
- ・周囲の視界が確保できなかった。
- ・指揮者が適切に指示しなかった。
- ・後方からの監視の目が行き届いていなかった。
- ・他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。
- ・他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

◎事故が起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
- ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- (装備・資機材について)
- ・装備・資機材自体に問題があった。
- ・装備・資機材の対処能力を超えていた。
- (活動環境について)
- ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
- ・狭隘な場所であった。
- (指揮・管理について)
- ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)
- ・隊員の連携が不十分だった。